

7の漢詩と8の碑文の読み方等を参考までに載せました

7 御野立公園 谷干城詩碑

左望米山右大洋 天然景勝慰君主 怒濤何事声悲怨便是当年古戰場

◇読み方の例

左 米山を望み 右大洋

天然の景勝 君主を慰む

怒濤 何事か 声悲怨

すなわちこれ当年の古戰場

◇大意

左ははるかに米山を眺め 右は広々とした海である。

この自然のすばらしい景色は、(明治十一年に)君主(明治天皇)のお心を休ませ楽しんでいただいた。

はげしく打ち寄せる大波の音が、悲しみとうらみの声に聞こえるのはどうしたことか。それは、ここが昔戦争のあった場所だからである。

8 明治天皇御巡幸記念碑「駐蹕之碑」

明治十一年 天皇北巡觀風省

俗親訪民瘼九月十三日到越後刈

羽郡鯨波邨駐蹕山上以覽海山之

勝明年二月邨民相謀建石以記盛

事垂之後昆鳴呼非 聖德 能如

此臣在扈從班因其請而記之

◇読み方の例

明治十一年、天皇北巡し、觀風省俗、親しく民瘼を訪う。

九月十三日、越後刈羽郡鯨波邨に到り、山上に駐蹕し

もって海山の勝を覽る。明年二月邨民あい謀りて石を建て

もって盛事を記し、これを後昆に垂る。ああ聖徳にあらざれば

なんぞよくかくのごとくならんや。臣扈從の班にあり、

その請によってこれを記す。

◇大意

明治十一年(一八七八年)、天皇は北方を巡って風俗人情を視察され、親しく人民のなやみをおたずねになった。九月十三日、越後刈羽郡鯨波村に着き、山上に乗り物をとめて海と山のすばらしい景色をくらんになった。翌年二月、村民は相談して石碑を建ておめでたいできごとを後々の子孫に残すことにした。ああ、天皇のすぐれた徳でなければどうしてこのようなことがあるのか。自分はおともしていたので、村民のたのみによってこれを記した。